

集団としての意見をまとめていこうとする 児童の育成

—— 「話し合い大作戦！」を取り入れた学級活動(1)の指導の工夫を通して ——

長期研修員 見友 文子

《研究の概要》

本研究は、学級活動(1)の話し合い活動において、聞くことを大切にしながら集団としての意見をまとめていこうとする児童の育成を目指して指導の工夫をした。具体的には、話し合い活動を「話し合い大作戦！」とし、様々な意見を受け入れるため、話を聞く時の視点と聞き合い方を示した「聞き合いタイム」、個から集団としての意見へ深めるため、めあてに向かって友達の意見のよさを取り入れるための視点を示した「しんかタイム」、お互いの意見のよさを生かし合意点を見いだすため、全体の意見を比べ合い練り合うための視点と話し方を示した「分かり合いタイム」を位置付けた。そうすることで、集団としての意見をまとめていこうとする児童を育てられることを実践を通して明らかにした。

キーワード 【学級活動 話し合い 聞き合い 分かり合い 集団】

群馬県総合教育センター

分類記号G 1 1 - 0 3 平成26年度 2 5 2 集

I 主題設定の理由

平成26年度群馬県学校教育の指針には、児童主体の学級活動の充実のために児童生徒自身が充実感や存在感を味わえるような自発的・自治的な活動を取り入れることの重要性が示されている。また、小学校学習指導要領解説特別活動編では、学級活動の話合い活動は、「多様な意見のよさを積極的に生かし、信頼し支え合って話合い活動を進められるようにして、楽しく豊かな学級や学校生活をつくるためによりよい集団決定ができるように適切な指導をすることが大切である」と述べている。そして、「児童の自発的・自治的な話合い活動を進めて、お互いの意見を正しく理解し合い、それらのよさを生かしながら合意形成すること」が求められている。

これらを受けはばたく群馬の指導プランには、話合いは「聞き合い・分かり合い」であり、「仲間の発言を受け入れ、自分の考えを分かりやすく伝えられるようにすること」の重要性が挙げられている。

これらに関わる内容で甘楽郡小学校教員に行ったアンケート結果は次のようであった。

1 児童の実態について

児童の実態について課題を感じている人は、「話す人の方を見て、姿勢よく聞くこと」については87%、「大事なことは何か考えながら最後まで聞くこと」については85%、「友達の意見を踏まえて自分の考えを話すこと」については75%、「お互いの意見の相違点や類似点を理解すること」については79%であった。人の話を聞くこと、聞いたことを踏まえて考えを話すこと、互いの意見の違いを理解することに課題を感じている人が多い。

2 教師の指導の実態について

学級活動の話合い活動における教師の指導の実態として「お互いの意見の相違点や類似点を理解すること」について74%、「友達の意見を踏まえて自分の考えを話すこと」について80%が「大変課題を感じている・課題を感じている」と答えている。また、「多数決で集団決定することが多い」については、70%が「よくあてはまる・あてはまる」と答えている。

そこで、本研究では、学校における児童の望ましい集団活動として、お互いの意見を正しく聞き、様々な意見を受け入れてそれらのよさを生かし合意点を見いだせるようにしたい。学級活動(1)において、人の話を正しく聞き、様々な意見を受け入れる「聞き合いタイム」、じっくりと自分の意見を見直し、集団の一員として個から集団としての意見へと自分の考えを深める「しんかタイム」、お互いの意見のよさを生かし、合意点を見いだす「分かり合いタイム」を取り入れた「話合い大作戦！」を設定する。これらの手立てを重ねていくことで、集団としての意見をまとめていこうとする児童を育てることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

特別活動の学級活動(1)の話合い活動において、集団としての意見をまとめていこうとする児童を育成するために、「話合い大作戦！」を取り入れた指導の工夫をすることの有効性を明らかにする。

III 研究の見通し

1 聞き合いタイム

「話合い大作戦！」の出し合う過程において、聞く視点と学級の実態に合った聞き合いパターンを用いる「聞き合いタイム」を設定することによって、友達の意見を正しく理解し公平に判断して、様々な意見を受け入れることができるであろう。

2 しんかタイム

「話合い大作戦！」で、意見を聞き合った後に比べ合いの視点を手がかりとし、めあてに向かって自

分の意見を見直す「しんかタイム」を設定することによって、自分の意見を集団としての意見へと深めていくことができるであろう。

3 分かり合いタイム

「話し合い大作戦！」の比べ合う過程において、視点を与えた「分かり合いタイム」を設定することによって、みんなの意見のよさを生かしながら合意点を見いだすことができるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「集団としての意見をまとめていこうとする児童」について

「集団としての意見をまとめていこうとする児童」とは、みんなが納得し折り合いを付けた集団決定のために、「様々な意見を受け入れ、個から集団としての意見へ深め、お互いの意見のよさを生かし合意点を見いだそうとする児童」と考えた。特別活動の話し合いにおいて大事なものは、自分の考えを押し通すことや、人の意見にただ従うとか妥協するとかいったことではなく、集団の一員としてめあてに向けて合意点を見いだすことである。集団決定の方法がたとえ多数決になろうとも、十分な聞き合い・伝え合いができ、お互いの意見のよさを認め合うことができているならば、自分の意見とは違っても、納得し、歩み寄ることができると思う。これも折り合いを付けた望ましい集団決定であると思う。

(2) 「話し合い大作戦！」について

「話し合い大作戦！」とは、意見を出し合う過程に「聞き合いタイム」、お互いの意見を聞き合った後に「しんかタイム」、意見を比べ合う過程に「分かり合いタイム」を取り入れた話し合い活動である(図1)。

折り合いを付けて集団決定するためには、様々な意見を受け入れること、自分の意見を個から集団としての意見へ深めること、お互いの意見のよさを生かし合意点を見いだすことが必要である。そこで、視点を持って聞き、学級の実態に合った聞き合いパターンを用いた「聞き合いタイム」、友達の見解のよさを取り入れるための視点を用いた「しんかタイム」、全体の意見を比べ合い練り合うための視点

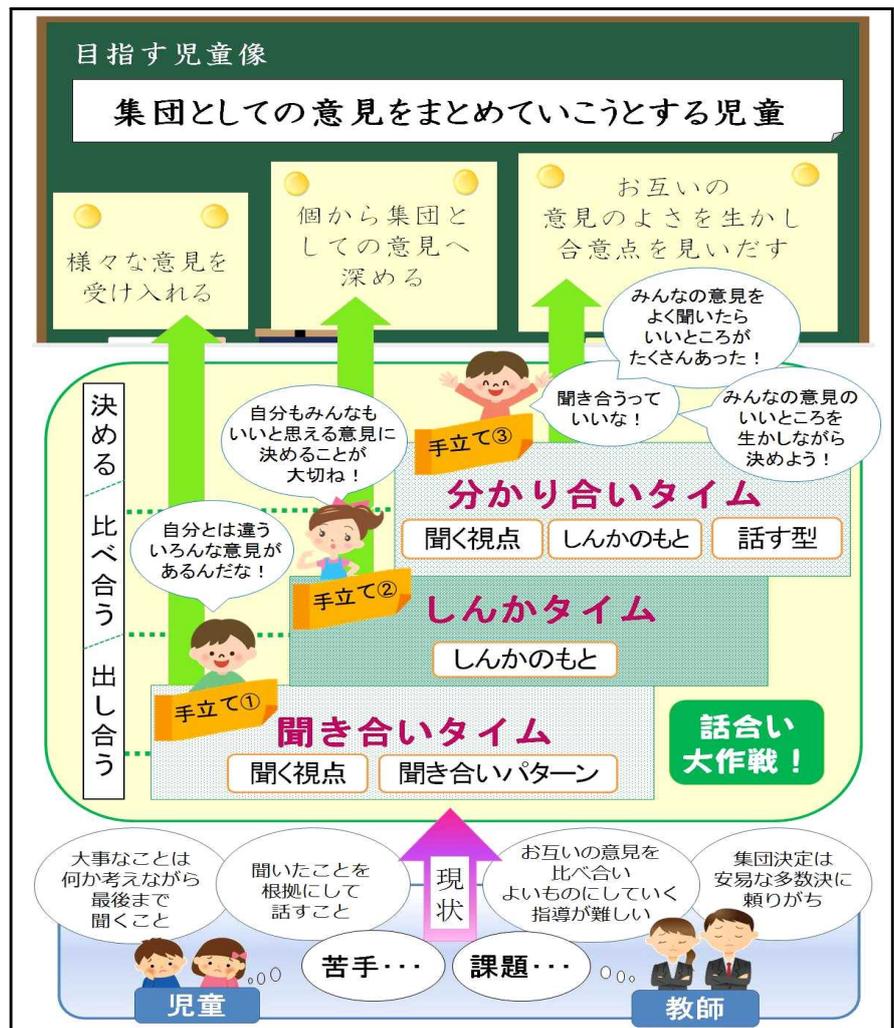


図1 研究構想図

と話し方を用いた「分かり合いタイム」を話し合い活動に位置付けたいと考えた。このような話し合い活動を「話し合い大作戦！」ということとする。

(3) 「聞き合いタイム」について

聞き合いタイムとは、意見を出し合い、様々な意見を受け入れるための時間である。正しく理解したことが公平な判断へとつながり、友達と自分の意見を比べ合うことができる。そこで、話を聞く時の視点として「うさぎの耳」(図2)、学級の実態に合った話し合い活動を進めるための「聞き合いパターン」を使う。

聞く時には「友達の意見を受け入れること」「友達の意見を正しく聞くこと」「友達の意見を公平に判断すること」を大切にしたい。それを「うなずいて・さいごまで・ぎもんをもって」とまとめて「うさぎの耳」とする。なお、聞く時の視点「うさぎの耳」は、聞き合いタイムに限らず、話し合い活動を通して使用する。さらに、人の意見を根拠として自分の考えを高める思考を働かせるためにも常時活動として身に付けられるようにしたい。



図2 聞く視点

また、「聞き合いパターン」を図に表すと下のようになる(図3)。

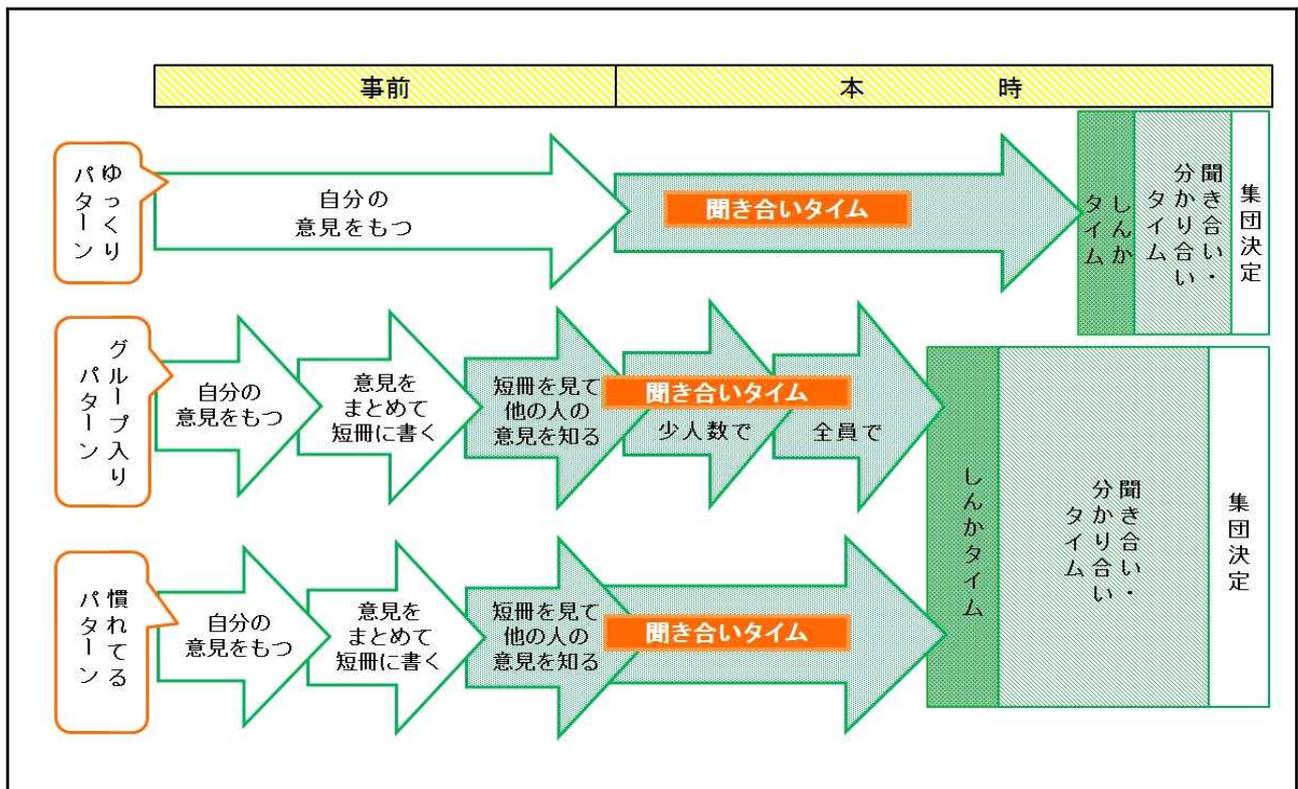


図3 聞き合いパターンのイメージ

「ゆっくりパターン」は、話し合いの経験が少ない学級向けで、低学年の指導に限らず、中・高学年でも、教師が話し合い活動の進め方を児童に示して理解できるように一つ一つの過程を丁寧に行う際に使用する。事前に持った自分の意見を、聞き合いタイムで出し合い、聞き合い、友達の話を正しく理解する過程を丁寧に行っていく。年度初めに学級全体に話し合い活動の確認をする時などにも効果的だと考える。

「グループ入りパターン」は、話し合いが停滞しがちな学級向けで、意見を話しやすく分かり合いをしやすい雰囲気をつくるために、初めにグループ(少人数)活動を取り入れる。話し合いに慣れていない段階において、少し時間を取り、周りの人と意見の交換をして自分の意見を確認したり、友達の意見を聞いて自分の意見をまとめたりするのは有効であると考えられる。これにより、学級活動におけ

る話し合い活動の目的である意見を聞き合い分かり合うことの必要性を理解し、集団の一員として意見を持ち聞き合おうとすることができるようにする。聞くことや話すことが苦手な児童が多く見られる学級にも効果的だと考える。

「慣れてるパターン」は、話し合いの経験が豊富で話し合いに慣れてきた、話し合いの流れが身に付いている学級向けで、教師の支援は最小限にして、計画委員が中心となり話し合いをつくっていく際に使用するパターンである。これにより、効率のよい話し合い活動を進め、一人一人の思いを十分に聞き合い分かり合うことができるようにする。お互いのよさや可能性を発揮し、よりよく成長できるような話し合い活動をさせたい時に効果的だと考える。

学級に合わせて教師が聞き合いパターンを選び、児童が話し合い活動を進めることにより、徐々に話し合いに慣れたり話しやすい雰囲気を持ったりしながら、友達の意見を正しく理解し、様々な意見を受け入れることができる。なお、「グループ入りパターン」「慣れてるパターン」は、事前にそれぞれの意見を計画委員が集約し、短冊にまとめておいて本時の前に提示すれば、児童はそれを見て他の人の意見を知ることができる。本時ではどうしてそういう意見を持ったのか、理由を聞くことに重きを置くことができ、より正しく他の人の思いを理解することにつながる。また、この2つのパターンでは、聞き合いタイムの一部を事前に行うことにより、本時における聞き合う時間を短縮でき、より考えを深めるために時間を充てた話し合い活動を行うことができる。

(4) 「しんかタイム」について

しんかタイムとは、じっくりと自分の意見を見直し、集団としての意見へと深めるための時間である。その時自分の意見をよりめあてに近づいたものにするのが大切であり、友達の意見のよさを取り入れる手立てとして「しんかのもと」を提示する(図4)。考えがめあてに向かって変わったり深まったりするところから「しんかタイム」と名付けた。

「必要なことを選んで話す」といった主体的な話し方は沈黙の中で深く思考することなしには成長するものではない」と石田氏(1990)は述べている。そこで、よりめあてに近い意見へと自分の考えを深める、すなわち進化(深化)させられるように、しんかタイムは黙って考える時間とする。

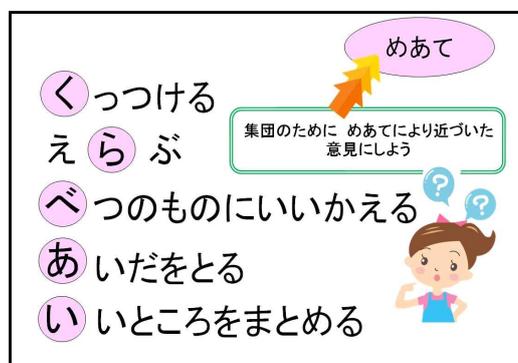


図4 しんかのもと

(5) 「分かり合いタイム」について

「分かり合いタイム」とは、「しんかタイム」で深めた意見をもとに、みんなの意見のよさを生かしながら合意点を見いだすために比べ合い、練り合う時間である。そこで、「うさぎの耳」の視点で聞いたことに対して自分の考えを話すことができるように「話す型」を使う(図5)。これにより、話に没入しながら話の内容や話し手に対して共感的に聞く活動だけでなく、疑問を持ったり質問を考えたりしながら聞く活動を行うことができる。そうすることで、友達の思いをより正しく理解し、意思の疎通を図って意見を認めることやよさに気付くことにつながる。また、比べ合い練り合う際「集団のためにめあてにより意見にしよう」という意識付けを強くしておく必要がある。

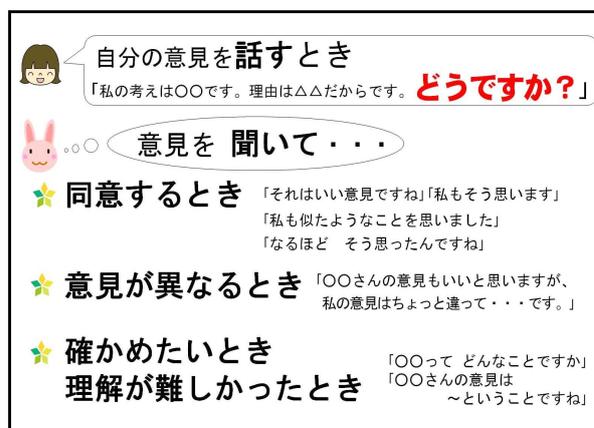


図5 話す型

2 先行研究とのつながり

(1) 互いを認め合い、よりよい人間関係を築こうとする態度の育成

(群馬県総合教育センター長期研修員研究報告書第246集)

① 集団決定するための工夫

ここでは、折り合いを付け集団決定するための手立てとして、自作「なっとくシート」を活用している。集団決定する際の視点を分かりやすく4つのわざとして示し、シートに沿ってまとめていく中で、児童は、意見のまとめ方を理解することができ、それぞれの意見を尊重しながら集団決定できたとしている。

② 所属感を深め協力して実践するための工夫

話し合いを受けて実践前や実践中に友達への励ましやアドバイスを「おうえんカード」に記入し交流することでお互いのよさを認め合い居心地のよさを感じ、協力して実践する意欲が高まったとしている。所属観が深まり、時には話し合いで自分の意見が取り入れられなくて我慢した児童がこれにより前向きな気持ちを持って実践への意欲を高めることにもつながったとしている。

本研究では、上記の教材の内容を参考にし、集団の一員として意見をまとめていこうとしたり、お互いの意見のよさを認め合いながら話し合い活動を進めたりできるような教材を工夫していきたいと考える。課題として、各教科等の話し合い活動でも活用できるようにすることが挙げられていた。学級活動で学んだ話し合いの仕方を各教科に生かしたり、学校生活の様々な部分で役立てられるようなものへと発展させられるよう研究に取り組んでいきたい。

(2) 友達と響き合い、自ら進んで実践できる子どもの育成

(宇都宮大学教育学部附属小学校研究紀要1996)

① 相手の意見のよさに気付くための手立て

友達の意見に対して単に賛成や反対を唱えるのではなく、子ども同士が互いの考えや思いをよく聞き合うとともに相手の意見のよさに気づき、気持ちを考えながら互いの意見を伝え合う双方の活動を「互いの意見をつなぐ話し合い」と考えている。相手の意見のよさに気付くための手立てとして、意見の付け足しを奨励する言葉や意見をまとめる言葉を学級全体に投げかけたり、小集団での意見交換の時間を設定したりして友達がどんな考えや思いを持っているのかを話題にして話し合うようにしたことで、互いのよさや思いを認め合いながら話し合いを進められるようになったとしている。

② 自分の考えや思い、その根拠を明確にするための工夫

意図的に時間を取り、自分の考えや思い、その根拠を書いておくことで、自分の意見を明確化し、自信を持たせることができるとともに、話し合いの内容を広げたり深めたりすることもできるとしている。また、発言内容がより具体的になったり、普段発言の少ない子どもが発言したりするなど、その後の話し合いも活発になっている。

本研究でも、集団としての意見をまとめていくためには、お互いの思いを正しく理解した上でそれを受け入れ、それぞれのよさを生かそうとすることが必要であると考えており、同校で行った「互いの意見をつなぐ話し合い」の手立ては大いに参考になる。少集団での意見交換の時間を取り入れる場面や、自分の考えや思いを明確化させる時間を取り入れる場面について研究を進め、より有効な時間になるようにしていきたい。

V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

対象	小学校第1学年	小学校第3学年	小学校第5学年	小学校第6学年
実践活動	「はじめてのうんどうかいをみんなでがんばろう」	「バスの中でのレクリエーションを決めよう」	「スポーツ大会をしよう」	「音楽集会を企画しよう」
期日	平成26年9月11日	平成26年9月30日	平成26年11月11日	平成26年11月11日

2 検証計画

検証過程	検証の観点	検証の方法
見通し1 聞き合いタイム	「話し合い大作戦！」の出し合う過程において、聞く視点と学級の実態に合った聞き合いパターンを用いる「聞き合いタイム」を設定することは、友達の意見を正しく理解し公平に判断して、様々な意見を受け入れるために有効であったか。	・活動の観察 ・話し合い大作戦！カード
見通し2 しんかタイム	「話し合い大作戦！」で、意見を聞き合った後に比べ合いの視点を手がかりとし、めあてに向かって自分の意見を見直す「しんかタイム」を設定することは、自分の意見を集団としての意見へと深めていくために有効であったか。	・活動の観察 ・話し合い大作戦！カード
見通し3 分り合いタイム	「話し合い大作戦！」比べ合う過程において、視点を与えた「分り合いタイム」を設定することは、みんなの意見のよさを生かしながら合意点を見いだすために有効であったか。	・活動の観察 ・話し合い大作戦！カード

3 評価規準

別紙資料参照

4 指導計画（1単位時間）

(1) 小学校一年生 議題 「はじめてのうんどうかいをみんなでがんばろう」

ねらい：初めての運動会に参加するに当たり、自分たちが頑張ることについて1年生の目標をつくり守れるようにする。

過程	時間	活動内容	指導のポイント（○）と研究上の手立て（◎）	目指す姿と評価方法
事前の活動	休み時間 朝や帰りの会	1 課題（議題）の発見	○学校生活における児童の様子等、実態把握に努める。	【関・意・態】 学級生活に関心を持ち、話し合いの準備に取り組んでいる。
		2 議題の決定	○みんなで話し合いたいことはないか、児童に呼びかける。	
本時の活動		3 問題の意識化	○提案された議題を整理し「みんなで話し合う必要性・切実感」のある議題を選定する。 ○一人一発言を目指し、考えを持つことができるよう議題に対する自分の考えをワークシートに記入するよう伝える。	
		4 話し合い活動	○どうしてこの議題について話し合うのか提案理由を確認し、話し合いへの意欲を高めるようにする。	
		①初めの言葉	○一人一人がめあてを理解できるように、めあてをみんなで声に出して読んだり、教師が説明したりする。	
		②議題の確認		
		③提案理由の確認		
		④めあての確認		
		⑤話し合い		
		聞き合いタイム	◎友達の意見を正しく理解し様々な意見を受け入れるために聞き合いタイムを設定する。教師の支援を多く入れながら「ゆっくりパターン」で行う。【見通し1】	【思・判・実】 合い言葉づくりに向けて考え、判断し、まとめようと話合っ
		しんかタイム	◎自分の意見を見直し、集団としての意見へと深	

ぎだい はじめてのうんどうかいをみんなでせいこうさせよう
めあて うんどうかいをせいこうさせるためにはどうしたら
よいかかんがえよう
はなしあうこと 1ねんせいのもくひょうをかかんがえよう

		<p>めていくためにしんかタイムを設定する。【見通し2】</p> <p>◎みんなの意見のよさを生かしながら合意点を見だし、集団としての意見をまとめていくために分かり合いタイムを設定する。【見通し3】</p> <p>⑥決まったことの発表 ⑦振り返り ⑧教師の話 ⑨終わりの言葉</p>	<p>める。</p> <p>〈観察〉 〈話し合いカード〉</p>
事後の活動	<p>運動会練習時 朝や帰りの会</p> <p>5 集団としての実践 6 活動の振り返り</p>	<p>○全員のよかった点を認め、励ますことで次時の活動につなげられるようにする。</p> <p>○決まった話し合い言葉を教師と児童とで書き、教室に掲示する。</p> <p>○みんなで意見をまとめていったことや、それを守って運動会を頑張ったことを振り返り、次の活動への意欲につなげる。</p>	<p>【関・意・態】</p> <p>決定したことについて、進んで取り組もうとしている。〈観察〉</p>

(2) 小学校3年生 議題 「楽しいバス旅行にしよう」

ねらい：みんなで力を合わせて楽しいバス旅行にするために、バスレクを決めて行うことができる。

過程	時間	活動内容	指導のポイント (○) と研究上の手立て (◎)	目指す姿と評価方法
事前の活動	休み時間 朝や帰りの会	1 課題（議題）の発表	○学校生活における児童の様子等、実態把握に努める。	【関・意・態】 学級生活の充実と向上に関心を持ち、自分の意見をもつことができる。〈観察〉
		2 議題の決定	○教師の支援のもと、計画委員が提案された議題を整理し「みんなで話し合う必要性・切実感」のある議題を選定する。	
		3 問題の意識化	○計画委員が議題やめあて、話し合いの流れ等を学級活動コーナーに掲示しておく。それを意識しながら、事前に自分の考えを持つことができるよう教師が話し合い大作戦！カードに記入させておく。	
		4 計画委員との打ち合わせ	○計画委員の児童と進め方やそれぞれの役割について打ち合わせする。	
本時の活動		5 話し合い活動	<p>議題 楽しいバス旅行にしよう。 めあて みんなが楽しくバスに乗れるようなレクリエーションをしよう 話し合うこと バスの中でのレクリエーションを決めよう</p>	【思・判・実】 公平に判断しながら聞き、お互いの意見のよさを取り入れながら集団としての意見をまとめようとしている。〈観察〉 〈話し合いカード〉
		①の言葉		
		②計画委員の紹介		
		③議題・めあての確認		
		④話し合い		
		聞き合いタイム	◎友達の意見を正しく理解し様々な意見を受け入れるために聞き合いタイムを設定する。初めての計画委員による進行であるので、教師が適宜支援しながら進められるように「ゆっくりパターン」で行う。【見通し1】	
		しんかタイム	◎自分の意見を見直し、集団としての意見へと深めていくためにしんかタイムを設定する。【見通し2】	
		分かり合いタイム	◎みんなの意見のよさを生かしながら合意点を見だし、集団としての意見をまとめていくために分	

	まとめ ⑤決まったこと の発表 ⑥振り返り ⑦教師の話 ⑧終わりの言葉	かり合いタイムを設定する。【見通し3】 ○全員のよかった点を認め、励ますことで次時の活動につなげられるようにする。	
事後の活動	バス登り時 朝や帰りの会 5 集団としての 実践 6 活動の振り返り	○決定したことについて、自分たちで決めたという 思いを持ってバスレクができるようにする。 ○みんなで決めたことを行い、よかったという思い を持てるよう支援する。	【関・意・態】決 定したことについて、 進んで取り組もうと している。(観察)

(3) 小学校5年生 議題「スポーツ大会をしよう」

ねらい：みんなが活躍できる種目を決め、スポーツ大会をすることができる。

過程	時間	活動内容	指導のポイント (○) と研究上の手立て (◎)	目指す姿と 評価方法
事前の活動	休み時間 朝や帰りの会	1 課題（議題） の発見 2 計画委員会を 組織し打合せ ・議題の決定 ・話合いの活動 計画を立てる。 ・役割分担をする。 ・アンケートの 作成 3 問題の意識化	○学校生活における児童の様子等、実態把握に努めたり、議題箱を設置し児童が気が付いた学級の諸問題を議題として取り上げる環境づくりをしたりする。 ○計画委員を組織し提案された議題を整理して「みんなて話し合う必要性・切実感」のある議題を選定する。 ◎聞き合いパターン「グループ入りパターン」を使い、以下のように聞き合いタイムの一部を事前に済ませておくことでその後の時間を確保する。【見通し1】 ・朝や帰りの会等に計画委員の紹介を済ませておく。 ・計画委員の児童と活動計画を立て、話合いの進め方についての補足やそれぞれの役割について打ち合わせし、注意事項については、事前に教師がしっかりと指導する時間を取り、徹底できるようにする。 ・計画委員が議題やめあて、話合いの流れ等を学級活動コーナーに掲示しておく。また、スポーツ大会をするにあたり、自分はどんな種目なら活躍できるかについてアンケートを取り、まとめて掲示しておく。 ・それぞれの意見を書いた話合いカードを計画委員が回収し、意見を分類して短冊に書いておく。	【知識・理解】 話合い活動の進め方について理解している。 話合いの際に、計画委員としての役割や気を付けなければいけないことについて記述している。(計画委員の活動計画)
		4 話合い活動 開始前	◎短冊を見て他の人の意見を知る。【見通し1】	
本時の活動	本時開始	①初めの言葉 ②議題の確認 ③提案理由の確認 ④めあての確認 ⑤話合い 少人数で	議題 スポーツ大会をしよう。 めあて みんなが活躍できるような「スポーツ大会」をしよう。 話し合うこと みんなが活躍できる種目を決めよう。 ・提案理由やめあては話合いのよりどころとなるものなので、改めて全体にしっかりと伝えられるようにする。 ◎話しやすい雰囲気をつくったり、自分の意見に自信	

本時の活動	聞き合いタイム	をもちたりしてから全体での聞き合いに入れるように、初めに少人数での聞き合いタイムを設定する。 【見通し1】	【思考・判断・実践】 公平に考え、判断し、集団としての意見をまとめようと話し合っている。(観察・話し合いカード)
	全員で聞き合いタイム 一人でしんかタイム 全体で分かり合いタイム まとめ	<p>◎少人数で聞き合ったことをもとに、今度は全体で聞き合う。</p> <p>◎自分の意見をじっくり見直し集団としての意見へと深めていくためにしんかタイムを設定する。【見通し2】</p> <p>◎みんなの意見のよさを生かしながら合意点を見いだし、集団としての意見をまとめていくために分かり合いタイムを設定する。【見通し3】</p> <p>○「集団のために」ということを改めて意識付けしてから集団決定に入れるように、計画委員と打ち合わせておく。</p> <p>○聞き合いを生かし、公平に判断できるよう支援する。十分に分かり合えている場合には、多数決を取るのもよいことを理解させる。</p> <p>○めあてである「みんなが活躍できそうな」というところが大事であることを司会者とよく確認しておき、話が逸れてしまった場合には、修正できるよう促す。</p>	
	⑥決まったことの発表 ⑦振り返り ⑧教師の話 ⑨終わりの言葉	○司会グループやそれぞれのよかった点を認め、励ますことで次時の活動につなげられるようにする。	
事後の活動	5 集団としての実践 6 活動の振り返り	○決まった種目についてそれぞれ係を決め、その係が中心となって実行する。 ○みんなで意見をまとめていったことや、実行してみたことを振り返り、次の活動への意欲につなげる。	

(4) 小学校6年生 議題 「音楽集会を企画しよう」

ねらい：全校のみんなが音楽を楽しみと思えるような音楽集会の内容を決め、実行することができる。

過程	時間	活動内容	指導のポイント (○) と研究上の手立て (◎)	目指す姿と評価方法
事前の活動	休み時間 朝や帰りの会	1 課題（議題）の発見 2 計画委員会を組織し打合せ ・議題の決定 ・話し合いの活動計画を立てる。 ・役割分担をする。 3 問題の意識化	○学校生活における児童の様子等、実態把握に努めたり、議題箱を設置し児童が気が付いた学級の諸問題を議題として取り上げる環境づくりをしたりする。 ○計画委員を組織し提案された議題を整理して「みんな話し合う必要性・切実感」のある議題を選定する。 ◎聞き合いパターン「慣れてるパターン」を使い、以下のように聞き合いタイムの一部を事前に済ませておくことでその後の時間を確保する。【見通し1】 ・朝や帰りの会等に計画委員の紹介を済ませておく。 ・計画委員が中心となり活動計画を立て、話し合いの進	【知識・理解】 話し合い活動の進め方について理解している。 計画委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方など、効率

		<p>め方についての補足やそれぞれの役割について確認する。注意事項については、事前に教師が指導する時間を取り、徹底できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画委員が議題やめあて、話合いの流れ等を学級活動コーナーに掲示しておく。また、音楽集会を企画するに当たりどんなことを決めておけばいいか話し合っておき、それも掲示しておく。 ・それぞれの意見を書いた話合いカードを計画委員が回収し、意見を分類して短冊に書いておく。 	<p>的な進め方を理解している。(計画委員の活動計画)</p>
<p>本時の活動</p>	<p>話し合い活動 開始前</p>	<p>◎短冊を見て他の人の意見を知る。【見通し1】</p>	
	<p>本時開始 ①初めの言葉 ②議題の確認 ③提案理由の確認 ④めあての確認 ⑤話し合い 聞き合いタイム しんかタイム 分かり合いタイム まとめ ⑥決まったことの発表 ⑦振り返り ⑧教師の話 ⑨終わりの言葉</p>	<div data-bbox="531 613 1302 772" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>議題 音楽集会を企画しよう。 めあて みんなが音楽の楽しさを味わえるような音楽集会をしよう。 話し合うこと 全校のみんなが音楽を楽しみと思えるような内容を考えよう。</p> </div> <p>◎提案理由やめあては話し合いのよりどころとなるものなので、改めて全体にしっかり伝えられるようにする。</p> <p>◎進行表をもとに出されそうな意見を計画委員にアドバイスして把握させておくことで、話し合いの流れを予測しながら自分たちの力で進行できるようにする。</p> <p>◎話し合いに慣れている、話し合いの流れが身に付いている学級であるので、計画委員を中心に「慣れたパターン」で行う。【見通し1】</p> <p>◎自分の意見をじっくり見直し集団としての意見へと深めていくためにしんかタイムを設定する。【見通し2】</p> <p>◎みんなの意見のよさを生かしながら合意点を見だし、集団としての意見をまとめていくために分かり合いタイムを設定する。【見通し3】</p> <p>◎「集団のために」という意識付けをしてから集団決定に入ることや、めあてである「みんなが音楽の楽しさを味わえるような」というところが大事であることを司会者とよく確認しておく。</p> <p>◎話が逸れてしまった場合には、修正できるように促す。</p> <p>◎司会グループやそれぞれのよかった点を認め、励ますことで次時の活動につなげられるようにする。</p> <p>◎決まった内容について係を決めて準備を進め、音楽集会を実行する。</p>	<p>【思考・判断・実践】 公平に考え判断し、自分の意見を変容させたり他の意見に譲歩したりして、集団としての意見をまとめようと話し合っている。(観察・話し合いカード)</p>

事後の活動	実践 6活動の振り返り	○みんなで決定したことを主体的に実行することができたか発表し合い、次の活動への意欲につなげる。	【思考・判断・実践】 決定したことをみんなで効率的に実践することの意義や方法について理解している。
-------	----------------	---	---

VI 研究の結果と考察

1 1年生の実践「はじめてのうんどうかいをみんなでがんばろう」の結果

(1) 聞き合いタイム

1年生にとって初めての話し合い活動である。教師が司会や書記の方法を児童に示したり、友達の意見を正しく理解できるように教師の細やかな支援を入れたりしながら進められるよう「聞き合いパターン」のゆっくりパターンを用いて活動を行った。「1年生としての目標」を考えられるように、事前に教師が「運動会を成功させるにはどうしたらよいか」というめあてについて具体的に説明をし、自分の意見を話し合いカードに記入させた(図5)。聞き合いタイムでそれをもとに意見を出し合い「一位になりたい」や「リレーを頑張る」等、個人で頑張ることが多く出されたが、中には「みんなで頑張ろう」や「みんながふざけないで最後までやる」等みんなでやるということ考えた児童もいた。聞く視点「うさぎの耳」を使いながら聞くことを意識し、話す人の方を見て頷きながら聞いており、「それ、いいね!」という声も聞こえてきた。自分以外の様々な意見を受け入れている姿が見られた。

- ・一位になりたい(8名)
- ・リレーを頑張る(4名)
- ・一人一人頑張って成功させよう(2名)
- ・ちゃんとしないと負けちゃうから自分の力を出して頑張る
- ・負けても泣かない
- ・みんなで頑張ろう(4名)
- ・みんながふざけないで最後までやる
- ・みんなで上手ににやりたい
- ・みんなで協力して運動会を成功させよう

図5 話し合いカードに記入された内容

(2) しんかタイム

「しんかのもと」を使って、友達の意見のいいところを取り入れながら、「自分だけではなくみんなで運動会を頑張るための意見にしようね」と教師が確認してからしんかタイムに入った。今まで元気に意見を出し合っていた児童も一人で黙って考えていた(図6)。初めは「頑張る」「一位になりたい」など個人としての頑張りを書いていた児童の中にも「しんかのもと」を使って意見を比べ合い、友達の発表の中から、「みんなで」や「協力して」「最後まで」などの言葉を選び、付け加えた記述が見られた。「一人一人がふざけないで最後まで頑張る」と、友達の意見のいいところをまとめることができた児童もいた。



図6 しんかタイムの様子

児童Aが初め話し合いカードに書いた意見は「りれいをがんばりたい」であり、聞き合いタイムではそう考えた理由について「自分が一番頑張りたいのはリレーだから」と発表した。友達からリレーを頑張ることについての発表があると、それを聞きながら児童Aは大きく頷いていた。他の児童の話にも耳を傾け、黙ってじっと聞いている様子だった。そして、しんかタイムで自分の考えを整理した意見は「みんなできょうりよくしてがんばろう」だった(図7)。どうしてそのように書いたのかををたずねると「○○さんが、『みんなで協力して運動会を成功させるがいいです。理由は運動会はみんなで頑張るものだ



図7 児童Aの話し合いカード

からです』と発表していたからそれを選びました」と答えた。このように、83%の児童が個人としての目標から1年生全体のことを考えた目標へと意見を深めることができた。

(3) 分かり合いタイム

みんなであてをを読み、「運動会を成功させるためにみんなで頑張れる目標を決める」ということを確認し合ってから分かり合いタイムに入った。「うさぎの耳」「話す型」を使い、「人の意見をよく聞くこと」を教師が促した。児童Bは「リレーを頑張る」「リレーで一番になりたい」など、リレーにこだわっていたが、友達のことを聞くうちにみんなで頑張ることのよさに気づき、「リレーだけ頑張っても成功とは言えないよね」とつぶやいた。その後少し考えてから児童Bは自信を持った声で「協力っていう言葉を入れた方がいいと思います。協力すれば頑張れるからです」と発表した。「どうですか？」の後、その話を根拠として自分の意見を話す、という約束を守ろうとすることにより、話し合いの経験が少ない1年生でも、人の話の大事なところは何か正しく聞き、児童Bのように聞いたことをもとにして話そうという姿が見られた。

そして、「協力して」「最後まで」「集中して」という言葉が多く入っているところに気付いた児童が、「しんかのもと」の「くっつける」を使い、「みんなの意見のいいところをまとめてくっつけて、協力して最後まで集中して頑張るはどうですか？」と言うと、「それがいいね」「みんなの意見が入っているね」ということになり、合意点を見いだすことができた。自分とは違う意見であっても、それらを比べ合い、よいと思えるところを生かして合意形成した姿であると言える。

2 3年生の実践「楽しいバス旅行にしよう」の結果

(1) 聞き合いタイム

3年生はこれまでに何度か話し合いの経験があり、教師の行う司会や書記の仕方を見ながら役割を理解し始めてきたところであった。本時は初めて計画委員を立て、担任の細やかな支援と共に司会や書記を少しずつ児童に任せながらも、正しく聞き合い公平に判断しながら進められるように「聞き合いパターン」のゆっくりパターンを用いて活動を行った(図8)。



図8 計画委員の様子

「メチャギントンゲーム」がいいです、と言った児童がいて、「疑問を持ちながら」聞いていた児童が、「メチャギントンって何ですか」「ルールを教えてください」と質問をし、よく知っている児童が説明する場面もあった。「メチャギントン」とは、リズムに乗って出されたお題の擬音を考えるゲームである。「メチャギントン」を提案した児童が、理由として「『ガチャガチャ』とか『ゴロゴロ』とかの音を考えるのを、みんなでやると楽しいからです」と発言すると、「へえ～」「おもしろそうだね～」という声があちこちから聞かれた。他には、怖い話・ビンゴ・しりとり・クイズ・名前並び替えクイズなどが挙げられたが、自分の意見とは違う意見も頷きながら聞いていた。

(2) しんかタイム

「しんかのもと」を使い友達の意見のよいところを取り入れながら、めあてに向かって自分の意見を集団としての意見へと深めるよう担任が促してからしんかタイムに入った。

児童Bの初めの意見は「ビンゴ」だったが、「しんかのもと」のえらぶを使ってみよう」とつぶやきながら、メチャギントンに変えた。「メチャギントンは知らなかったけど、ルールを教えてもらったら、みんなでやると楽しそうだから」と理由を書き、めあてである「みんなが楽しめる」ということを意識できていたことが伺える。児童Cの初めの意見は「しりとり」だったが、しんかタイムに入るとすぐに「クイズ」と変えていた。理由を「クイズの方がみんなで考えるからみんなが楽しいと思うからです」と書いており、こちらも「みんなが」ということを意識できていた。このように、友達の意見のよさを取り入れ、めあてを意識しながら自分の意見を見直した結果、約60%の児童が自分の意見を変えた。他には「名前並び替えクイズがいい」という意見は変わらなかったものの、「一緒に行く4年生の名前も覚えられるので、みんなが楽しくなると思うから」と理由を挙げていた児童も見られた。意見が変わった児童も変わらなかった児童も、めあてである「みんなが楽しく」という点を考

えながら自分の意見を見直し、集団としての意見へと深めることができました。

(3) 分かり合いタイム

しんかタイムの後「みんなが楽しくバスに乗れるようなレクリエーションをしよう」というめあてを計画委員が確認し、分かり合いタイムに入った。「メチャギントンがいいと思います、どうですか」という意見が出ると「メチャギントンって、どんなことですか」「やり方が分からないからやめた方がいいと思います」と意見が出された。「もう一度メチャギントンについて教えて下さい」という声も挙がり、提案した児童が説明する、という場面もあった。「うさぎの耳」で最後まで説明

を聞き、内容を理解すると、反対していた児童からも「面白そう」「みんなでやると楽しそう」という声が聞こえ、児童が聞くことの大切さに気付いた一面が見られた。次に「クイズ」と「名前並び替えクイズ」の2つの意見について、「しんかのもと」を見ながら「クイズと名前並び替えクイズは、クイズの種類なので、まとめて〈クイズ〉にすればいいと思います、どうですか」「いいと思います。そうすればどちらの意見も生かせるからいいと思います」という意見が出た。ずっとクイズにこだわっていて、クイズ以外はやりたくないと言っていた児童Dも、クイズと名前並び替えクイズを一緒にする理由を聞くと、大きく頷きながら拍手をした。その後はメチャギントンにも理解を示し、「ルールを聞いたら、バスの中でみんなで行ったら楽しそうだから」と理由も書いていた(図9)。振り返りの欄には「はじめはクイズがいいと思ったけど、メチャギントンのことを聞いて、おもしろそうだし、みんなで行うことに決まってよかった」との記述があった(図10)。このようにして「メチャギントン」と「クイズ」に絞られ、2つすればいいという意見にまとまった。みんなの意見のよさを生かしながら合意点を見いだすことができた。

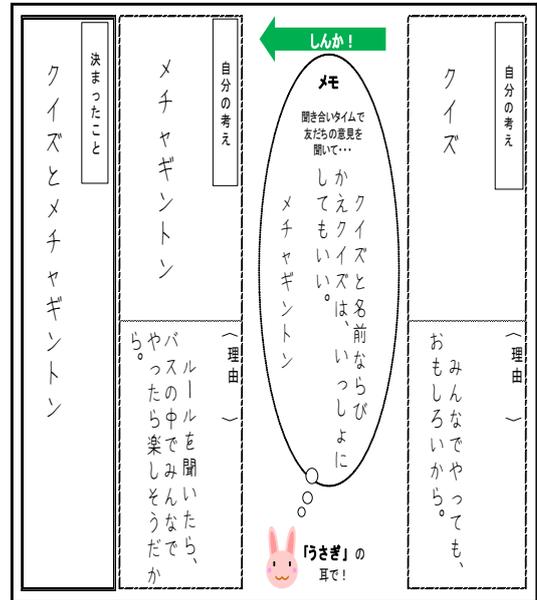


図9 児童Dの意見の移り変わり

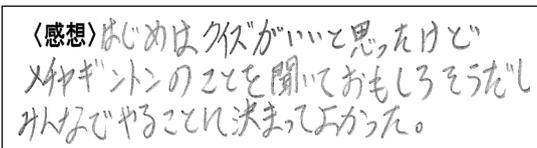


図10 児童Dの振り返り

3 5年生の実践「スポーツ大会をしよう」の結果

(1) 聞き合いタイム

学級の人数が多く、恥ずかしい気持ちや緊張する気持ちが強くなってしまい、全体の前では自分の考えが持っても発表することをためらって、話し合いが停滞しがちな学級である。そこで、意見を話しやすく分かり合いをしやすい雰囲気をつくるために「聞き合いパターン」のグループ入りパターンを用い、初めに少人数での聞き合いタイムを設定した。近くの席の友達と、自分の考えやどうしてそのような考えを持ったか理由を聞き合った。児童Eは、いつもは全体の前で発表することは少ないが、少人数での聞き合いの中で、「〇〇さんも、そう思ったんだ！私も！」とか「へえ、そういう風に考えたんだね」等自分の意見を認められたことで、その後の全員での聞き合いでも発表できた。ドッチボール・キックベースボール・野球・リレー・なわとび等、様々な意見が出されたが、どの意見にも頷きながら聞いていた(図11)。



図11 聞き合いタイムの様子

(2) しんかタイム

「しんかのもとを使いながら集団としての意見へと自分の意見を整理して下さい」と計画委員が

全体に確認してからしんかタイムに入った。児童Fは、自分の意見が持てても、発表することはあまり好まない児童である。初めの意見は「バスケットボール」で理由は「みんなで楽しめて、協力してできるからです」であった。「みんなで」という言葉は入っているが、めあてにある「みんなが活躍できる」というところまでは考えられていなかった。周りの人の意見を聞いた後、じっと黙ってしんかタイムをし、書いた意見は「ドッチボール」であり、その理由は「人の意見を聞いて、ドッチボールならみんながボールを投げられて、バスケットボールより活躍できると思ったからです」だった。このように、友達の意見を聞いた後、自分の意見が変わった児童が37%、意見は変わらないが理由が変わった児童が19%であった。児童Fは意見が変わらなかったうちの一人で「バスケットボール」と書き、理由を「みんなでパスをし合いながらやれば、みんなが活躍できるから」と「みんなが」を意識できていた。その他の児童は意見も理由も変わらなかったが、よく人の意見を聞いた上でしんかタイムができたと思取れる児童は、自分の意見が集団としての意見に相応しいと判断し、自分の考えに自信を持つことができたようだった。「活躍できるような」というめあてに向かって個から集団への意見へと深められたことが伺える。

(3) 分かり合いタイム

しんかタイムの後「みんなが活躍できるようなスポーツ大会をしよう」というめあてを計画委員が確認し分かり合いタイムに入った。ほとんどの男子はキックベースボールがいい、女子はバスケットボールかドッチボールがいいと考えていた(話し合いカードと教師の見取りより)。まず男子Aが「お楽しみ会の時にみんなでやったからです、どうですか」と理由を言うと女子Aが「お楽しみ会でやったからといって、みんなが活躍できるとは限らないと思います、どうですか」と反対意見を述べた。すると女子Bが「お楽しみ会でやったから、キックベースでなく違うものの方がいいと思います、どうですか」と言うと男子Bが「この前みんなでやったからルールがよく分かっていると思うのでいいと思います」という理由を挙げた。これらの児童は普段発言することには消極的であるが、いずれも話す型を使いながら人の意見を根拠として意見を発表していた。そのうち「男子と女子分けてやったらどうか」「女子はすぐ文句を言うから・・・」等の発言があり、それに同調するような雰囲気となった。しかし、司会が「みんながそれぞれ活躍して、それを認め合っているいいクラスにしようと思って提案したので、みんなでできることを考えて下さい」と皆が提案理由を想起できるような声かけをすると、初めからずっとキックベースがいいと言っていた男子Cが「ドッチボールがいいと思います。理由はドッチボールなら当たらないように逃げることでボールを持ってなくても活躍できるからです、どうですか」という意見を出した。それでも「同じ人ばかりボールを投げることになるのでは」という意見があったが「同じ人が2回続けて投げないなどのルールをつくったらどうか」等、同じ人ばかりが投げってしまう問題はルールを設けることでなんとかしようということ合意点を見だし、ドッチボールをすることに決定した。

普段は発言を遠慮しがちな児童Gも、本時は自分の意見を堂々と発表することができた。語尾に「どうですか」と付けて話すことで、人の話をもとにして話そうという雰囲気が高まり、他の児童が「自分もGさんの意見と同じです」と言ったのを聞くととても嬉しそうだった。自己評価欄にも「今日はみんながたくさん意見を言っていたのでよかったです。意見をよく聞いて、発表できてよかったです」との記述があった(図12)。また、児童Hの自己評価欄(図13)には「ちゃんと聞いてよかったです」との記述があったので、どういうところがよかったのか聞いてみると「友達が意見を出した理由を、最後まで正しく聞こうとしたら、言い方は違うけれど、自分の意見も友達の意見と同じということが分かって嬉しかったから」と話していた。聞き合うことを大切にしたら結果、友達の思いを正しく理解でき、よさを生かしながら合意形成できた。

〈感想〉
今日はみんながたくさん意見を言っていたのでよかったです。意見をよく聞いて、発表できてよかったです。

図12 児童Gの自己評価欄

〈感想〉先生の話しやみんなの話をきくとちゃんと聞いてよかったです。

図13 児童Hの自己評価欄

4 6年生の実践「音楽集会を企画しよう」の結果

(1) 聞き合いタイム

前学年から話し合い活動の経験が積み上げられており、話し合いの方法や計画委員の役割についての理解が進んでいる。そこで、計画委員を中心として効率のよい話し合い活動を進め、一人一人の思いを十分に聞き合い分かり合うことができるようにするために「聞き合いパターン」の慣れたパターンを用い、話し合い活動を行った。児童一人一人が「うさぎの耳で聞くこと」や、「聞き合いタイムはお互いの意見を認め合う時間である」ということを理解しており、事前に話し合いカードに記述しておいた意見(図14)を出し合い、友達がどうしてそう思ったのかを落ち着いて聞き合っていた。頷くだけでなく、「それもいいなあ」「なるほどね」とつぶやく声も聞かれ、友達の意見を受け入れることができていた。

- ・学年でパートを分けて歌う(7名)・楽器クイズ(3名)
- ・「たぬきで歌う遊びをする」・流行の歌を歌う(13名)
- ・ウォーミングアップをして体を温めて歌う・リズム遊び
- ・リズムを取りながら歌う・アニメの歌を歌う(4名)
- ・大きな声を出してハーモニーにする

図14 話し合いカードへの記述

(2) しんかタイム

計画委員が改めてしんかタイムの説明をしてから各自で自分の意見の見直しを始めた。児童Iは「『流行の歌を歌う』と『アニメの歌を歌う』という意見を一つにしてもいい。最近の流行の歌はこのアニメの歌だから」と話し合いカードに記述していた。この児童Iと同様に、しんかのもとの「くつつける」を使って考えられた児童は40%いた。

児童Jの初めの意見は「大きな声を出してハーモニーにする」であった。「大きな声を出す」と響き、ハーモニーになりきれいな音色になるから」と理由を書いていた。しんかタイムでは、聞き合いタイムで出された様々な意見の中から「えらぶ」を使い、3つの意見を選んでいった。どれも「みんなが音楽の楽しさを味わえる」というめあてに近づけようとする理由が記述できた(図15)。児童Jと同様に、しんかのもとの「えらぶ」を使って自分の意見を整理できた児童は30%だった。

<p>自分の考え</p> <p>ようかいウオッチを歌うた遊び パート別に歌う</p>	<p>自分の考え</p> <p>大きな声を出しハーモニーにする。</p>
<p>〈理由〉</p> <p>みんな知っていて、元気で遊んでいるから。楽しんでいるから。小さな音だとつられてしまから歌わないとだから。</p>	<p>〈理由〉</p> <p>大きな声を出すといひいて、ハモってきれいなハーモニーになるから。</p>

図15 児童Jの意見の移り変わり

また、「リズム遊び」と「流行の歌を歌う」のいいところを取り「手拍子をしながらか流行の歌を歌えば楽しいと思う」など、「いいところをまとめる」を使って考えられた児童は20%だった。その他の児童は、初めの意見と変わらなかったが、めあてを意識しながら理由を記述することができた。このように、めあてに向かって自分の意見を見直し、個から集団としての意見へと深めることができた。

(3) 分かり合いタイム

計画委員が「みんなが音楽の楽しさを味わえるような音楽集会をしよう」というめあてを確認してから分かり合いタイムに入った。児童Iは、「『流行の歌を歌う』と『アニメの歌を歌う』という意見を一つにしてもいいと思います。最近の流行の歌はこのアニメの歌だからです、どうですか」と、しんかタイムで考えた内容を提案した。すると「私もそう思います」と、児童Iに賛成する意見が次々と挙がり、2つの意見をくつつけて「流行の歌を歌う」にすることに決まった。話す型を使い「どうですか」と問い、それに答えようとしながらか聞くことで、友達の思いを正しく理解

することができスムーズに合意形成が進んだ(図16)。

その後、児童Kが「流行の歌を歌うときに、ダンスをしながら歌えば、小さい学年の人にも分かりやすいし、みんな楽しくなると思います。どうですか」と提案し、多くの賛成を得て決定するに至った。さらに楽しい活動にするために、考えを深められた結果であると言える。児童Kの自己評価欄には「次の音楽集会在が楽しめるようにできてよかった」(図17)、他には「みんながいろいろな発言をして比べ合いながら決まったのでよかったです」「しっかり人の話もよく聞けたし、ちゃんと自分の考えや理由を言えたと思います」等の記述があり、聞き合い・分かり合いながら合意形成できたことが伺える。



図16 合意形成が進んでいる様子

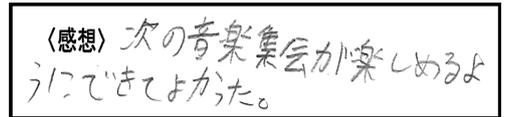


図17 児童Kの自己評価欄

5 考察

(1) 聞き合いタイムについて

聞く視点である「うさぎの耳」で聞けたましたか、について児童の自己評価結果は右のようである(図18)。

1年生はもう少しと答えた児童はおらず90%以上が大変よくできたと回答している。3・6年生は大変よくできたとよくできたを合わせて約90%、5年生は80%である。以上から「うさぎの耳」を意識し、聞くことを大切にしながら話合いに臨むことができたことが伺える。話しながら最後まで話を聞き合えることにより、安心して話すことができているように感じられた。また、疑問を持ちながら聞くことで、分からないことを質問したり公平に判断したり正しく受け止めたりできていた。そして、「聞き合いパターン」を示し、その中から学級の実態に合わせて話合い活動を進めたことは、話しやすく聞きやすい雰囲気高めたり、どうしてそう思ったのかを正しく聞き取りやすかった。授業を行った教員からは「自分の学級の実態に合った聞き合いパターンを選んで話し合い活動をさせることで、一つ一つ丁寧に話合い活動を進めていくことができ、話合いとは意見を聞き合い合意形成をすることだと児童に実感させながら進められた」という声があった。児童にとって、話合い活動が、人の話をよく聞いて分かり合いお互いを認め合える、意見を公平に判断できることにつながってきたと考えられる。また、「〇年生だから・・・でなく、学級の実態に合った聞き合いのさせ方、という考えは授業をする教員側としても話合い活動を進めやすく、児童にどんな支援をすればよいか分かった」という声もあった。

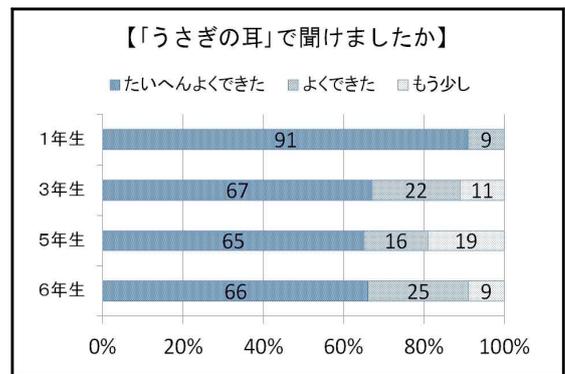


図18 自己評価結果

「話合い大作戦！」の出し合う過程において、聞く視点「うさぎの耳」と学級の実態に合った聞き合いパターンを用いる「聞き合いタイム」を設定したことは、友達の意見を正しく理解し公平に判断して、様々な意見を受け入れるために有効であったと考える。

(2) しんかタイムについて

お互いの意見を出し合った後に、黙って自分の意見を見直す時間を設定したことで、児童はこれまでの聞き合いを振り返り落ち着いて考えることができた。「しんかのもと」を手がかりとし、友達の意見のよさを取り入れることを意識できるようにしたため、自分と友達の意見を比べ合い、よりめあてに近づいた意見へと深めようとする姿が実践の中に見られた。授業を行った教員からは「視点を与えたしんかタイムを設定することで、聞きっぱなし・言いっぱなしになることがなく、落ち着いて自分の意見を見直すことができ、意見に深まりがみられた」との声があった。

「話し合い大作戦！」で、意見を聞き合った後に比べ合いの視点を手がかりとし、めあてに向かって自分の意見を見直す「しんかタイム」を設定したことは、自分の意見を集団としての意見へと深めていくために有効であったと考える。

(3) 分かり合いタイムについて

「友達の意見を聞き、それをもとにして話す」を意識できたかについて、児童の自己評価結果は右のようである(図19)。1年生は、もう少しと答えた児童はおらず、89%が大変よくできたと回答している。3・6年生は、大変よくできたとよくできた合わせて約90%、5年生は75%

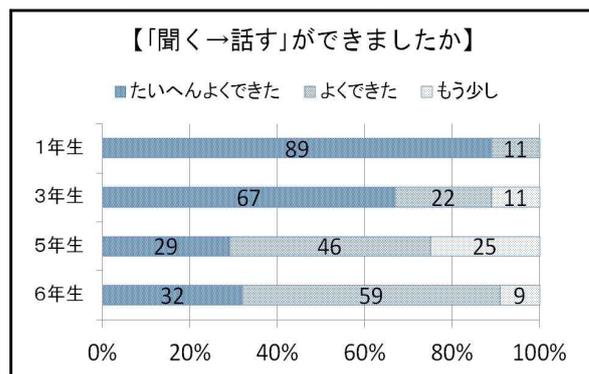


図19 自己評価結果

である。結果として他学年に比べ、5年生はやや低めだが、分かり合いタイムの途中で話し合いが白熱し、司会が「言いたいことがある人は、手を挙げて指名されてから話して下さい」と注意するくらいに意見が飛び交う場面が見られたので、自分はルールを守れなかったと感じた児童が評価を「もう少し」にしたからではないかと推測される。「うさぎの耳」「しんかのもと」を用いることで、「ただ聞いているだけ」「自分の意見を言ったらおしまい」ということが避けられ、聞き合いを大切にし、分かり合うことができたと考えられる。また、授業を参観していた教員からは「休み時間等ルールのない話し合いの中では、強い調子で発言する児童の意見に流されてしまいがちだが、視点を与えた話し合いを進めたことで、分かり合い、民主的な話し合いができた」という声があった。

「話し合い大作戦！」の比べ合う過程において、視点を与えた「分かり合いタイム」を設定したことは、みんなの意見のよさを生かしながら合意点を見いだすために有効であったと考える。

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

実践前と実践後において、「集団の一員として意見をまとめようという気持ちで話し合えたか」という自己評価を比較した結果は右のようである(図20)。事後の方が、「集団の一員として」という意識を高く持って話し合いに臨めたことが読み取れる。また、事後の話し合いカードには「自分が想像できなかった意見も出たのですごくいいと思いました」「よく聞き合ってみんなが納得できる意見に決まってよかったです」という振り返りも見られた。

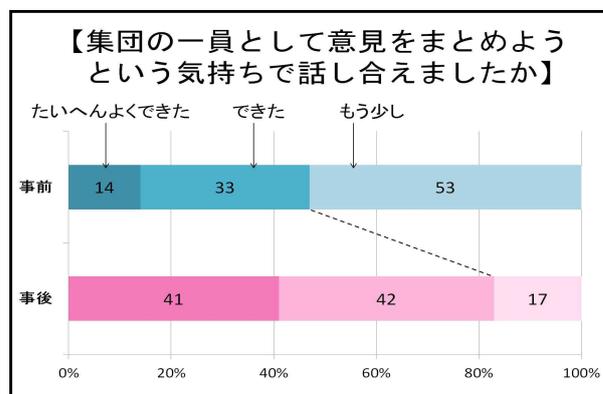


図20 自己評価結果

「話し合い大作戦！」の「聞き合いタイム」で、学級の実態に合わせた聞き合いができる「聞き合いパターン」と、聞く視点「うさぎの耳」を用いることは、友達の話を正しく理解し公平に判断して、様々な意見を受け入れるために有効であった。

「しんかタイム」で、「しんかのもと」を手がかりとしてめあてに向かって意見を見直すことは、自分の意見を集団としての意見へと深めるために有効であった。

「分かり合いタイム」で、「うさぎの耳」「しんかのもと」「話す型」を用い、全体の意見を比べ合い練り合うための視点を与えたことは、ただ聞きっぱなしにするのを防ぎ、みんなの意見のよさを生かしながら合意点を見いだすために有効であった。

実践を通して、特別活動の学級活動(1)の話し合い活動において、集団としての意見をまとめていこうとする児童の育成をするために、「話し合い大作戦！」を取り入れた学級活動の指導の工夫をしたことは有効であったと考える。

2 課題

「聞く視点(うさぎの耳)」や「話す型」は、思考を働かせて聞き、それを根拠にして話すことに有効であった。事前に、聞くことの大切さや聞く時の視点について説明し児童に理解させておくことで、さらに聞くことに集中し分かり合うことができる。事前の指導や準備のための時間を生み出すことや、効率のよい指導の仕方を探っていきたい。

VIII よりよい実践に向けて

学級活動の話合い活動は各教科で身に付けた聞く・話す能力を実践的に活用・向上させる場であるが、学級会で学んだ聞く・話す方法を各教科や学級経営にも生かすことができる。各教科や学級経営との関連を図りながら指導することで、児童の聞き合い・分かり合う力が向上し、お互いを正しく理解し認め合える学級経営につながると考える。

〈参考文献〉

- ・群馬県教育委員会 著 『はばたく群馬の指導プラン』(2012)
- ・今村信哉 大室健司 著 『学級会早わかり』小学館(2012)
- ・宮川八岐 著 『やき先生の特別活動講座 学級会で子どもを育てる』文溪堂(2011)
- ・石田佐久馬 編集 『小学校国語科学習指導の研究26 話合い 聞き合い 学び合い』
東洋館出版社(1992)

〈〈担当指導主事〉〉

坂口淳子 瀧川豊宏

別紙資料
学習指導要領をもとにした学級会の話し合い活動における評価規準
 (参考 国立教育政策研究所特別活動評価規準例)

特別活動の 目標	望ましい集団活動を通して、心身の調和の取れた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。
学級活動の 目標	学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

活動形態	学年	指導のねらい	活動形態別の評価規準		
			集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
計画	低学年	○教師の助けを得ながら、話し合い活動の準備ができるようになる。 ○学級活動ノートに 自分の考えを記入する など、話し合いの準備ができるようになる。	・学級生活に関心をもち、話し合いの準備に取り組んでいる。	・議題について自分の考えをもち、 話し合いの順序など簡単な計画 について考え、準備している。	・話し合い活動の準備の仕方や 基本的な進め方 を理解している。
		○ 計画委員会の進行を分担 して行き、話し合い活動の準備ができるようになる。 ○学級活動ノートに 提案理由を踏まえて自分の考えを記入する など、話し合いに向けた準備ができるようになる。	・学級生活の充実と向上に関心をもち、計画委員会の活動や話し合いの準備などに、 意欲的 に取り組もうとしている。	・議題について自分の考えをもち、 計画委員会の運営 や話し合いの活動計画について考え、準備している。	・計画委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方など、 計画的な進め方 を理解している。
		○ 計画委員会を聞いて、活動計画を作成し 、話し合いの準備ができるようになる。 ○ 学級全体のことを考えて学級活動ノートに提案理由を記入する など、話し合いに向けた準備ができるようになる。	・学級や学校の充実と向上に関心をもち、計画委員会の活動や話し合いの準備などに 自主的 に取り組もうとしている。	・議題について自分の考えをもち、 効率的な計画委員会の運営 や話し合いの活動計画について考え、準備している。	・計画委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方など、 効率的な進め方 を理解している。
	低学年	○教師が 進行役の役割を受け持つ ことから始め、少しずつ児童がその役割を担うことができるようになる。 ○学級生活を楽しくするために、友達の意見を 聞いたり 、自分の意見を 発表したり して、話し合いを進めることができるようになる。	・司会や記録の仕事、話し合いに 進んで 取り組もうとしている。	・よりよい学級の生活づくりに向けて考え、判断し、話し合っている。	・司会や記録の仕方の役割や 基本的な話し合い活動の進め方 を理解している。
		つ折れることを ○ 自分の意見を主張するだけでなく、友達を尊重し仲よく助け合いながら 意見をまとめていることができるようになる。	話す ・姿勢よく 丁寧な言葉と普通の言葉との違い に気を付けて話そうとしている。	・話す事柄を 順序立てて、理由を付けながら 話そうとしている。	・声の 大きさや速さなどに注意してはっきりとした声 で話そうとしている。
		聞く ・相手の方を見て 姿勢よく 聞こうとしている。	・どうしてそう思うのか 興味をもちながら 聞こうとしている。	・ 大事なことを最後まで 聞こうとしている。	
中学年	○教師の適切な指導の下に 児童が活動計画を作成し、進行役の役割を輪番で受け持ち 、司会や記録を行うことができるようになる。 ○楽しい学級生活をつくるために、 自分の考えと比べながら友達の良い点を聞いたり、理由を明確にして自分の意見を言ったりして、協力し合って 話し合いを進めることができるようになる。	・司会や記録の仕事、話し合いに 意欲的 に取り組もうとしている。	・よりよい学級の生活づくりに向けて考え、判断し、 まとめよう と話合っている。	・計画委員の仕事の内容や 計画的な話し合いの進め方 を理解している。	
	つ折れることを ○ お互いの意見のよさを取り入れながら、集団としての意見をまとめている ことができるようになる。	話す ・相手の方を見ながら 丁寧な言葉を用いて分かりやすく 話そうとしている。	・相手の 意見を受け、理由を明確にし ながら、筋道を立てて話そうとしている。	・ 知識や経験、聞の取り方 などに注意しながら話そうとしている。	
	聞く ・相手の方を見て 話を受け止めながら 聞いている。	・公平に判断しながら、どうしてそう思ったのか 相手のことを考えながら 聞いている。	・ 大事なことは何か話の中心に気を付けながら最後まで 聞いている。		
高学年	○ 計画委員会の活動について理解し、話し合いの進行 ができるようになる。 ○多様な意見のよさを生かしたり、 自分の言葉で建設的な意見を述べたりしながら、信頼し支え合って 話し合いを進めることができるようになる。	・司会や記録の仕事、話し合いに 積極的 に取り組もうとしている。	・活動内容に基づき、よりよい学級や学校の生活づくりに向けて 考え、判断し、建設的 に話し合っている。	・計画委員の仕事の内容や 効率的な話し合い活動の進め方 を理解している。	
	つ折れることを ○ 自分の意見を尊重させたり、他の意見に賛成したりして、集団としての意見をまとめている ことができるようになる。	話す ・相手に 自分の思いが伝わるように話し方を工夫 しようとしている。	・相手の 意見を受け、建設的な意見をもって、話の構成を工夫 しながら話そうとしている。	・その場に応じた もっとも適切な言葉づかい で話そうとしている。	
聞く ・自分と異なる意見にも互を 補い多様な意見のよさを生かしながら 聞こうとしている。	・公平に判断し、相手の意図をとらえ、 質問を考えながら 聞こうとしている。	・自分の 意見と比べるなどして考えをまとめながら最後まで 聞こうとしている。			
実践	低学年	○決定したことについて 仲よく 実践することができるようになる。 ○ 教師と一緒に 準備をしたり、計画を立てたりして活動できるようにする。	・決定したことについて、 進んで 準備や計画に取り組もうとしている。	・決定したことや役割を考え、 仲よく 実践している。	・決定したことについて、みんなで実践することの 大切さや方法 について理解している。
		○決定したことについて 協力し合って 実践することができるようになる。 ○ 役割分担して 準備をしたり、計画を立てたりして活動できるようにする。	・決定したことについて、 意欲的 に準備や計画に取り組もうとしている。	・決定したことや 自己の役割 を考え、 協力し合って 実践している。	・決定したことについて、みんなで 計画的 に実践することの 必要性や方法 について理解している。
		○決定したことについて 自主的に信頼し合って 実践することができるようになる。 ○ 創意工夫しながら 準備をしたり、計画を立てたりして活動できるようにする。	・決定したことについて、 自主的に 準備や計画に取り組もうとしている。	・ 自己の役割、創意工夫 などについて考え、 信頼し支え合って 実践している。	・決定したことについて、みんなで 効率的 に実践することの 意義や方法 について理解している。